



感染症週報



小笠原での流行状況

第42週（10月13日 から 10月19日まで）

父島 感染性胃腸炎の報告がありました。

母島 特別な感染症の報告はありませんでした。

※ 5例以上発生時に実数報告としています

東京都全体での流行状況

第41週（10月6日～10月12日）

【警報・注意報】

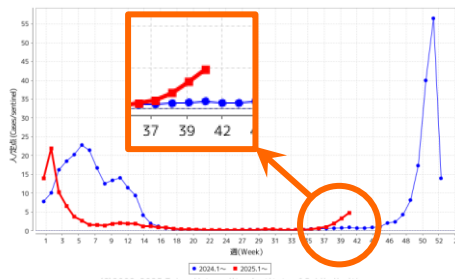
なし

【ピックアップ】

★増加しています

・インフルエンザ

（定点患者報告数 4.76）



(C)2002-2025 Tokyo Metropolitan Institute of Public Health

★注意が必要です

・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

（定点患者報告数 2.05）

・百日咳

（累計報告数 6,369例）

・感染性胃腸炎

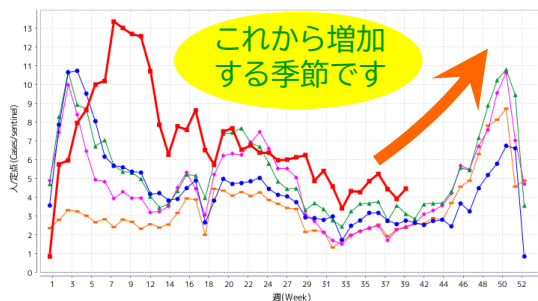
（定点患者報告数 4.39）

・マイコプラズマ肺炎

（定点患者報告数 0.96）

お腹のSOS！感染性胃腸炎にご用心

秋から冬にかけて、ノロウイルスなどによる感染性胃腸炎が増加します。主な症状は嘔吐・下痢・腹痛・発熱などで、特に乳幼児や高齢者では脱水症状に注意が必要です。



(C)2002-2025 Tokyo Metropolitan Institute of Public Health

過去5年間の感染性胃腸炎の定点患者報告数(東京都)



感染経路は、患者の便や嘔吐物を介した接触感染や、ウイルスが付着した食品・器具を介した経口感染です。ノロウイルスは少量でも感染し、アルコール消毒が効きにくいいため、次亜塩素酸ナトリウム（塩素系漂白剤）による消毒が有効です。

予防には、手洗いの徹底、調理器具等の消毒、体調不良時は調理を控えることが重要です。感染が疑われる場合は、早めに医療機関を受診し、無理な登校・出勤は控えましょう。



感染症メモ

出典、参考：東京都感染症情報センター

感染性胃腸炎は、ウイルスや細菌などの病原体が原因で起こる胃腸の炎症です。主な原因ウイルスには、ノロウイルスのほか、ロタウイルス・アデノウイルスなどがあります。特にノロウイルスは冬季に流行し、極めて少量でも感染する強い感染力を持ちます。ロタウイルスは乳幼児に多く、ワクチンによる予防が可能です。細菌性では、カンピロバクター・サルモネラ・腸管出血性大腸菌（O157など）・腸炎ビブリオなどが代表的です。これらは加熱不足の肉類や生魚、汚染された水・食品を介して感染します。症状は嘔吐、下痢、腹痛、発熱などで、原因によって潜伏期間や重症度が異なります。ウイルス性の場合は自然軽快することが多く、抗生物質は無効ですが、細菌性では重症度に応じて使用されます。

習慣にしよう！

感染予防の基本は手洗い



東京都島しょ保健所小笠原出張所